東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2008 年 8 月 1 日

最後の審判の日 -1-

人類の全ての歴史において、クルアーンが全世界の始まりと終わりについて与えているあらゆる知識を、それと同じくらいに詳しく、完全に正しく説明している第二の本、第二の文献を見出すことは絶対にできません。人が、その時間の中に制限された観点でこの世界を見るなら、全てが変わらず固定された状態であるように思えるかもしれません。預言者ムハンマドが遣わされた時代には、地球や宇宙の終わりが来ることを述べることは、まったく受け容れられない主張をすることでした。地球が宇宙の中を漂う一つの物体であることを知らない当時の人々は、足の下で強固な存在のように見える地球がいつの日かなくなることを信じることができませんでした。そして反論したのです。クルアーンでは次のように説明されています。

「信仰のない者は、『（審判の）時は、わたしたちには来ないであろう。』と言う。言ってやるがいい。『いや、主に誓って、それは必ずあなたがたにやって来るのである。』（サバア章第３節）

特に、全宇宙が地球のように無となることが語られても、アッラーの書を信じず、アッラーの力がそれを行なうのに十分であることを考えられずにいる人々にとってはそれはありえないことのように考えられたのでした。

親愛なるムスリムの皆様。今日、宇宙に関する知識が増したことによって、クルアーンが宇宙の終わりについて述べている事柄は、議論の余地もないこととして受け入れられています。もはや誰も、宇宙に終焉がないことを主張していないのです。

例えば、熱力学における法則は、宇宙の終わりが来ることを示しています。１８５６年にドイツの物理学者ヘルマン・ヘルムホルツは、熱力学の第二の法則を基に、宇宙がいつか終焉を迎えることを示しているのです。第二の法則は、この上なくシンプルにいうなら、温度が高いほうから冷たい方に流れていることを定義するものです。私達が飲む熱い紅茶が時間と共に冷めはじめることも、この作用によって起こる現象です。言い換えるなら、熱い塊は常に冷め続けているのです。何も他の事が起こらなかったとしても、太陽のエネルギーが尽きてしまえば、地球の終わりが来ることは確実なのです。宇宙の終わりが来ることもまた確実です。しかしこれがどのような形で実際に起こるか、どのような形で終わりがもたらされるのが、それがいつ起こるのかは議論が待たれるものです。

熱力学の法則は私達に二つの結末を与えます。

1　宇宙には始まりがある。

2　宇宙には終わりがある。

歴史を通して、アッラーのみを信じる全ての教えは、この主張を支持してきました。クルアーンは二つのこの論を支持し、また宇宙の始まりについて、また終わりについて奇跡的な解説を行なっています。歴史を通し、物質を神格化してきた人々は、物質が限りのない過去から存在し続けており、限りのない未来にまで存在し続けていくことを主張してきました。つまり、創造主という考えへと導く宇宙の始まり、そして教えの定義である審 a 判の日を否定してきたのです。来週は、審判の日に関する言葉をクルアーンから紹介していきます。